

2023年5月4日

## JLEM30周年記念企画(2023年3月18日)報告

### ●JLEM お勧め論文

担当委員:中川健司・河野俊之(横浜国立大学)・世良時子(北里大学)

この企画では、JLEM でこれまで行われてきた発表を振り返るという目的で、JLEM 賞受賞論文 3 編、会員のみなさんがご推薦くださった論文 14 編、30 周年記念企画「JLEM 発表を経た教材—あの発表が教材に!」、関連論文 4 編の計 21 編を、受賞コメント、推薦コメントともに掲示しました。参加者は、各論文に付箋でコメントをつけられるようにしたのですが、参加者アンケートでは、「参考になった」「過去のいい研究が見られてよかった」「自分も取り入れたいと思う内容だった」といった好意的なコメントを多くいただきました。その中でも「ゆっくり過去のお勧め論文を読むとき、執筆者の方、推薦者との対話に混ぜてもらっているような気がしてとても楽しかったです」というコメントに、双方向のポスター発表を中心に据えてきた JLEM らしさを感ずるとともに、この企画が JLEM の振り返りに役立っていることをうれしく思いました。

### ●教室でも簡単検索—手軽にコーパスを使ってみよう!

講師:内海陽子(海外産業人材育成協会)・木田真理(元国際交流基金日本語国際センター)・

清水まさ子(国際交流基金日本語国際センター)・清水由貴子(聖心女子大学)

担当委員:根津誠(国際交流基金日本語国際センター)・俵山雄司(名古屋大学)

コーパスを教師が準備に使うだけでなく、授業中に学習者に使わせてみる、というテーマで行われたこのワークショップには、50 名を越す人が参加しました。参加者は学習者になったつもりで、少納言や NLB を使って BCCWJ を検索する活動を体験し、講師からは実際の経験を元にした使い方のポイントが惜しみなく披露されました。また、共同研究のきっかけや得られたことなど舞台裏の話も出るなど、JLEM らしいセッションとなりました。参加者からは「学習者にコーパスを紹介するという発想がなかったので、とても参考になりました。」「それぞれのコーパスがどのような目的に沿うものなのかを非常にわかりやすく説明していただき大変勉強になりました。春からさっそく授業に取り入れたいと思います。」など満足の声が聞かれました。

### ●JLEM で発表しませんか?—あなたの発表、応援します!

担当委員:平山允子(日本学生支援機構)・中川健司(横浜国立大学)

「発表をしたいけど、ちょっと不安」「自分の教育実践を発表してみたい」などお感じの方々が、発表に踏み出す勇気が得られる場を作りたい!との思いから、この企画を実施しました。当日は、初めに JLEM 発表経験者からの経験談や参加者へのメッセージがありました。会員のラマ

ダン・ヘバさん（大阪大学大学院生）からは温かいビデオメッセージをご提供いただき、担当委員の平山は会場にてお話をしました。その後、いくつかのグループに分かれ、発表への不安やアイデアなどを少人数で話し合いました。各グループに委員も1名ずつ入り、参加者の皆さまのお話を伺いました。事後アンケートには「いろいろと自分が考えている発表の件についてアドバイスをいただきました」「気づきや学びがあり、自身の進むべき道が明確化されたので、とても有意義でした」といった回答がありました。参加者の皆さまのJLEM発表を、委員一同楽しみにお待ちしています。

### ●実践研究の方法

話題提供者：佐藤礼子（東京工業大学）・鈴木綾乃（横浜市立大学）・河野俊之（横浜国立大学）

担当委員：河野俊之（横浜国立大学）・平山允子（日本学生支援機構）

実践研究を行い、JLEMで発表してみたいけれども、実践研究とは何をしたらいいかわからないという方も多いただろうと考え、本企画を行いました。話題提供者2名の実践、実践研究の概要の紹介の後、インタビュー形式で実践研究について考えていきました。内容は、「実践を行ったきっかけは何ですか」「実践の方法を変える方法はどうやって考えたんですか」「先行研究はどうやって探せばいいですか」「実践研究の手順が分からないんですが」「先行事例を参考にすると、ただのマネになったりしませんか」「JLEMに限らず、実践に関して発表する意義は何ですか」「特にJLEMで発表する意義は何ですか」などです。また、鈴木氏の実践について発展させるなら、自身は何をしたいかについても考えました。参加者のご感想については、以下をご覧ください。  
<https://drive.google.com/file/d/1DvIoeZWPzHm40J1MQxMYUOU0nKsVfI2/view?usp=sharing>

### ●JLEM発表を経た教材—あの発表が教材に！

話題提供者：小河原義朗（東北大学）・高井美穂（大阪大学）・木戸光子（元筑波大学）

担当委員：俵山雄司（名古屋大学）・根津誠（国際交流基金日本語国際センター）

教材開発中にJLEMで発表し、その後、出版された教材の著者3名をお呼びし、小河原義朗氏からは『再話を取り入れた日本語授業 初中級からの読解』、高井美穂氏からは『関係作りの日本語会話 雑談を学ぼう』、木戸光子氏からは『おしゃべりしながら書くことを楽しむ中級作文』について、教材のコンセプトや使い方、開発の経緯を語っていただきました。その後、司会から「着想から出版までの期間」「当初の市販教材化の意識の有無」「JLEMを利用した理由」「発表の場でもらった質問やコメントで印象に残ったもの」「学習者の印象的な内省・振り返り」などについて質問し、回答いただきました。参加者のアンケートには「参考になった」「興味深い内容だった」「著者から直接お話をうかがえてよかった」などの声がありました。